

十島村教育委員会だより 令和7年3月号

さわやかトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 TEL 099-227-977

【出会いは別れの始まり!そしてまた新たな出会いが待っています。】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

鹿児島市内では、あちらこちらで緋寒桜が鮮やかなピンクの色で咲き誇っています。十島村では、どんな桜が咲くのでしょうか。学園の花壇では、パンジーやビオラ、ツルコザクラがきれいに咲いていることと思います。その花々に見送られ、15人の9年生が卒業式を終え、「島立ち」をしたことでしょう。留学生の中には1年で地元へ帰る子もいますが十島村での生活はきっと思い出深いものとなり、十島村を第二の故郷と胸に刻んでくれたことでしょう。

また、教職員も異動の季節となりました。3年以上勤務された先生もいらっしゃいます。また、勤務期限が1年間のみの先生もいらっしゃいます。それぞれに十島村での勤務は、教師としての原点であったと思います。御苦勞様でした。そして、様々なタイミングで、学園の児童生徒はもちろん、先生方にも叱咤激励しながら、物心両面にわたって温かい援助をしていただいた島民の皆様にも改めて感謝いたします。

別れは淋しいものです。しかし、出会いのあとには、必ず別れがやってきます。その別れは新しい出会いの始まりでもあります。涙を拭いて新しい出会いのために、新たなスタートを切って前に進みましょう。

◎ 嗤(わら)いをバネに! ～ 日米4257安打達成 イチローの生き方の一端 ～

大谷選手の前に、様々な偉業を成し遂げたイチロー選手。ある日の記者会見では、「自分は、いつも嗤われる(あざけるようなわらい、さげすむようなわらいのこと)ことをバネに頑張ってきた」という趣旨のことを語っていました。彼なりの目標の中で彼なりに取り組み、次へのステップを踏もうとすれば、いつも周囲から嗤われていたといふのです。

人は時として、当事者の今の資質やそれまでの経験、受ける印象などから判断して、その未来を過小評価しつつ、さげすむようなわらいを返してしまうことがあります。イチローは、その嗤いをバネに頑張ってきた人なのです。成し遂げた偉業の背景には、「嗤いをバネに」の堅い意志があったということなのです。

私たちも、日常生活の中で「嗤い」を受けることがあります。萎縮してそのまま消え入るのか、相手に言葉の牙で向き合うのか。もちろん一番は「嗤う」側の心無さや不適切さを問うべきですが、嗤いを自己成長のバネや糧にできる人間になれるといいなと、我が身を振り返ることでした。

【これまで、イチローが様々なタイミングで語った言葉から】

- 壁というのは、できる人にしかやっけない。超えられる可能性がある人にしかやっけない。だから、壁がある時はチャンスだと思っている。
- 苦しみを背負いながら毎日小さなことを積み重ねて、記録を達成した。苦しいけれど、同時にドキドキ、ワクワクしながら挑戦することが勝負の世界の醍醐味だ。
- いろいろと試すことは、ムダではありません。ムダなことを考えて、ムダなことをしないと、伸びません。
- 特別なことをするために、特別なことをするのはいい。特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。
- 打てない時期にこそ、勇気を持ってなるべくバットから離れるべきです。勇気を持ってバットから離れないともっと怖くなる時があります。そういう時期にどうやって気分転換をするかは、すごく大事なことです。

令和7年2月7日 南日本新聞「若い目」

祖母はいつも元気で毎日働き、私を一番そばで支えてくれた。元気がない時にはさりげなく好きな料理を作ってくれた。熱が出たらつきつきりていてくれた。そんな祖母が昨年の夏休み後半、がんが鹿児島市内の病院に入院した。私は中九島から祖母のことをずっと考えていた。九月三日の夜中、父からの連絡で亡くなったことを告げられた。

次の日にフェリーで会いに行った。涙が止まらなかつた。これからどう生活していけばいいのだろうと毎日考え続けた。沈んでばかりではだめだと思い、祖母のために明るく頑張ることを誓った。

祖母のいない正月を初めて迎えた。心新たに誓った。「ばあちゃん、とても寂しいけれど、私はこれからも頑張るから。ずっと見ていてね。大好きだよ」

ずっと見ていてね

中之島学園 七年
久木山 希海

令和7年3月3日 南日本新聞「若い目」

最近、三、四年生はエギングというえぎを使うイカ釣りにはまっています。なぜかというところ、たんに先生のイカ釣りがたぐさいる自然に誘われての島だからです。ぼくは、とくにイカ釣りが好きです。名前のイカをゲットできました。二〇〇gのイカは「釣りはやっぱりいいなあ」とつぶやきました。

四月には「釣り遠足」という悪石島だからこそできる行事があります。今から楽しみにしていました。

ぼくは自分たちで作ったえぎで、あのイカをつってみたいなと思っています。

次の釣り遠足がくる前にまた、三、四年生で釣りへ行く予定です。そのときに手作りのえぎをためて、大きいイカをかみながらゲットしたいです。目標は五〇〇gです。

イカ釣り最高

悪石島学園 四年
津波古 充航



よるのふうけい
中之島学園 四年
濱添 典

子供のうちた
(二月五日
南日本新聞掲載)

夜になると星が見える
あかいほししろいほし
あおいほしとともきれいな
夜になると月が見える
まんげつはんげつ
みかづき 明るくて大きい
私は夜空が大好きだ
私は月になってみたい



【口之島学園からのメッセージ】 口之島学園 教諭 時村 翔

口之島に赴任して2年が過ぎようとしています。2年前は、まだ新型コロナウイルスが五類になる前で、PCR検査をしてフェリーとしまに乗り込み、来島したことを覚えています。

来島した当初は、今まで過ごしてきた環境とは少し違う環境に戸惑いながら日々を過ごしていました。しかし、島民の方々はとても優しく、特に、近所の方々には採れた魚や筍を持ってきてくれたり、「元気ですか。」「慣れましたか。」「などと声をかけてくれたりしてくれました。島民の方々の優しさに触れ、ふと木戸教育長先生の「不便ではあるが不幸ではない。」という言葉思い出しました。赴任できて本当に良かったと感じています。

どの島もそうだと思いますが、行事は、地域との関わりがとても大きいと思います。運動会や文化祭など、多くの行事を協力して進めており、島全体で取り組むことの大切さや達成感を毎回感じています。子どもたちのためにと協力して下さる地域の方々本当に感謝しています。

子どもたちも個性豊かで、毎日が刺激的で一日として退屈な時間はありません。毎日があっという間に過ぎる充実した日々を送っています。元気に学校に登校し、元気に下校していく子どもたちの姿を見るのがたまらなく好きです。

いよいよ、学校の中でも、島での在職期間が長い方に入ってきました。これまでの経験を生かし、子どもたちや口之島に少しでも還元していけるよう努力していきたいと思っています。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

年度末となりました。お忙しいとは思いますが、健康には十分留意されて、新年度に向けて、教育活動を頑張ってください。

【悪石島学園からのメッセージ】 悪石島学園 教諭 大渡 昌幸

悪石島に来て、2年目になります。児童生徒からの「先生、これができるようになりました!」という喜びの声。保護者からの「少し見ない間に、たくましく成長した姿に驚きました。嬉しいです。」という感謝の声。地域の方々からの「子供たち、本当に間違えるように成長しているね。毎日楽しそうだね。」という温かい声。こうした声を聞くたびに、教師として胸が熱くなり、喜びを感じています。十島村の教育が、子供たちの可能性を大きく広げる力になっていることを日々実感しています。

特に悪石島では、地域の方々との交流を通じて育まれる学びや、伝統行事を活用した教育が豊かです。この自然豊かな環境や文化、そして島民の皆さんとの温かな関わりが、子供たちに「生きる力」を確かに育てていると感じます。また、十島村の7つの学校との交流は、私自身にとっても学びの場であり、多くの刺激と成長の機会を与えてくれます。

私自身も、この島で新しい経験を積む中で、日々新たな発見がありました。これからも児童生徒と共に、できなかったことができるようになる喜びを分かち合い、成長していく日常を楽しみたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

日頃より、数多くの先生方から御指導・御助言をいただき、心より感謝申し上げます。これまでいただいたアドバイスを大切に、研究と修養に精進してまいります。今後とも変わらぬ御指導、御助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。